

# 青果物パッキング作業の委託による農家所得向上の実現

愛知県経済連(愛知県)

## 取組の背景

あいち中央・西三河・あいち三河・あいち豊田・愛知東・ひまわり・蒲都市・愛知みなみ・豊橋

- 青果物の経営において、選果・選別やパック・袋詰め作業は非常に労力の掛かる作業であり、総労働時間における割合はイチゴでは約4割、イチジクでは約2割を占め、生産者には大きな負担となっている。
- イチゴ・イチジク等の産地である三河地域でも、農家の高齢化、後継者不足、パート従業員などの人材不足等により労働力が足りず、生産基盤の縮小が懸念されている。
- 量販店や加工業者などの実需者ニーズが変化する中で、単にパック詰めをするだけでなく、パッケージや規格などの付加価値を創造し、販売力を強化する必要がある。
- 各農協が個別に施設・設備を維持管理すること、生産基盤の縮小及び実需者ニーズへの柔軟な対応が求められる中、愛知県経済連が中心となり、関係農協と共同運営による「青果物パッキングセンター」を設立。

## 取組の概要

- 施設を愛知県経済連が建設し、平成27年2月には西三河地域4農協<sup>※1</sup>(取扱品:イチゴ、イチジク、なす、筆柿)と、平成30年11月には東三河地域5農協<sup>※2</sup>(取扱品:イチゴ、イチジク、アスパラガス、夏秋なす、ミニトマト)と、それぞれ共同運営する選果やパック詰め等の業務を担う施設を稼働。
- 農協、経済連での共同運営により、広域での数量確保と販売力強化、施設・整備の維持及び製造ノウハウの集約化など合理的な運営が可能。
- 複数農協の生産物を取り扱うことにより、1年を通じた効率的で安定的な施設の稼働が可能。
- 農家は、専用コンテナで収穫したものを直接施設に持ち込むか、施設から遠い地域では、地域の集荷場に持ち込み、施設への運搬を委託。
- 実需者の要望によるオリジナル商品の開発、展開等付加価値を付けた販売により農家の所得を拡大。



※1 西三河パッキングセンター:あいち中央、西三河、あいち三河、あいち豊田

※2 東三河パッキングセンター:愛知東、ひまわり、蒲都市、愛知みなみ、豊橋

## 成果

### (1) 取扱数量

品目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
イチゴ (利用農家)	103万パック (49名)	101万パック (52名)	160万パック (115名)	234万パック (142名)
イチジク (利用農家)	45万パック (65名)	45万パック (64名)	41万パック (76名)	74万パック (82名)

取扱数量  
イチゴ2.3倍  
イチジク1.6倍  
(対H28年比)

### (2) パッキングセンターを活用した商品開発と取引実績

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
商品開発	13アイテム	17アイテム	45アイテム	61アイテム
取引金額	402百万円	576百万円	1,071百万円	1,520百万円

取引金額  
3.8倍  
(対H28年比)

- 利用農家の声としては、①パッキングセンターの利用により、これまでパック詰めに要していた時間が削減されることとなった。これにより、安定生産に取り組み、ほ場管理の徹底による収量増や品質の向上、規模拡大による農業所得が向上、②家族の労働力が減る中、パッキングセンターがなければ、面積を縮小していた。
- それぞれの農協が得意とする作物を取り扱うことにより、施設の周年稼働・パートの安定雇用が可能。